

JST 理事長 記者説明会

令和4年 8月 23日



科学技術振興機構

我が国科学技術の国際的地位を巡る状況

- 日本の研究力が低下。さらに**最先端研究の国際ネットワークから脱落**し始めている。
- 一方、昨今の地政学的変化を受け、科学技術強国において**日本との連携を再評価する動き**。

4月以降、先方からの要望に応じ、海外FA、大使館等との会談を7件実施。いずれも日本との協力への高い関心が示された。

今何をなすべきか！？

本日の講演にて現状と解決策のヒントを

東京大学 相田 卓三 卓越教授

東京大学 黒田 忠広 教授

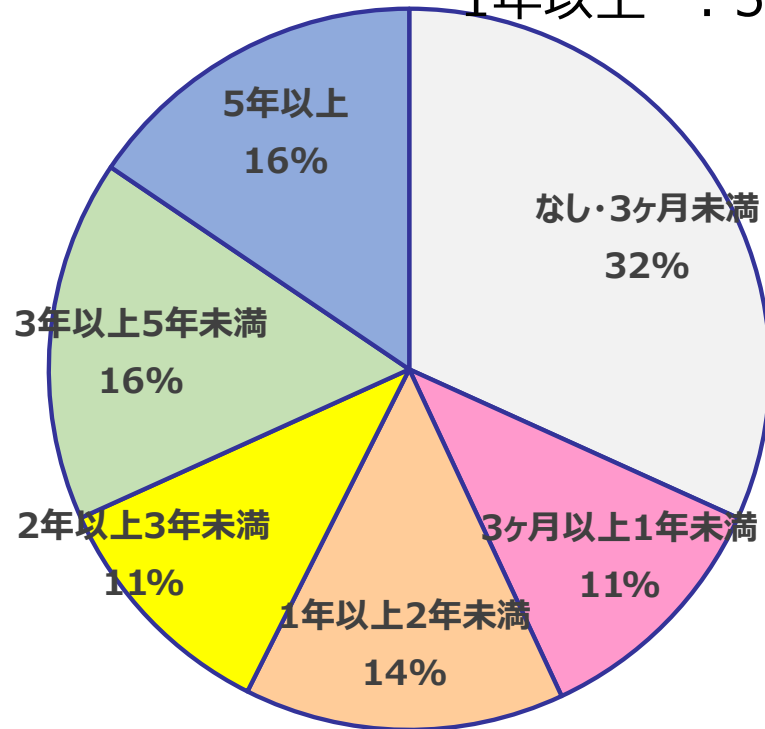


創発研究者経歴：海外経験

高い海外経験比率

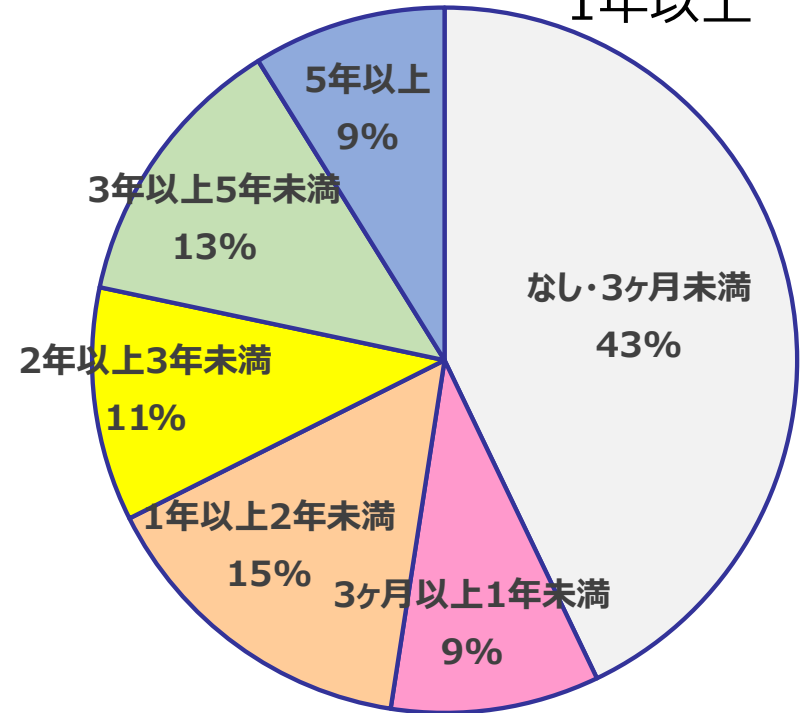
海外滞在期間

3ヶ月以上：68%
1年以上：57%



海外研究期間

3ヶ月以上：57%
1年以上：48%

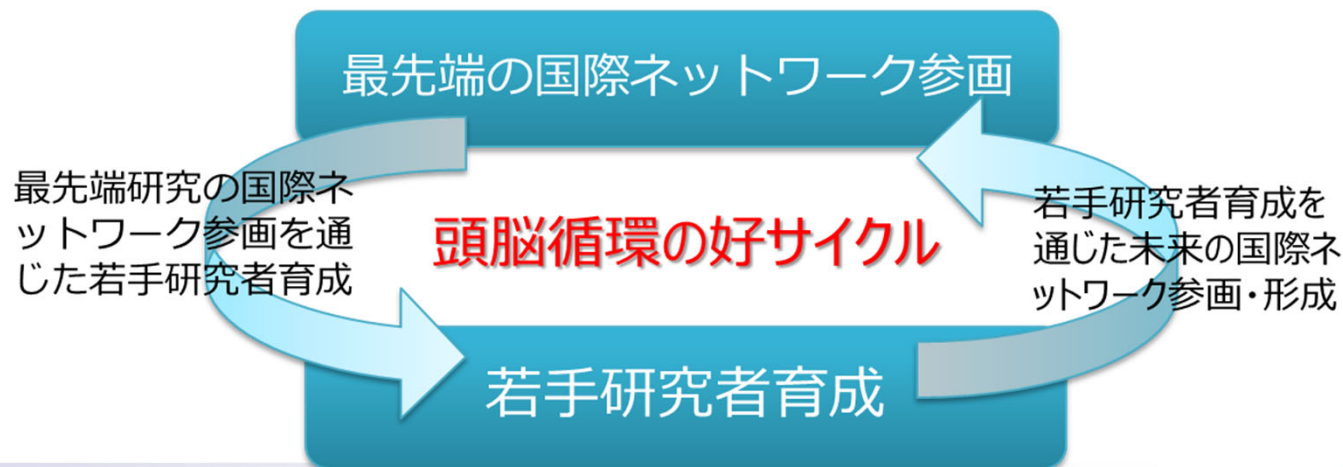


創発研究プログラム 応募者総数 **4,851** (2020, 2021年度) 2022年度は約2,800件
採択者総数 **511** (同上)

取り得る出口戦略とJSTの対応

この機を捉えた、**国際頭脳循環・共同研究の強化が必要**

1. 最先端研究の国際ネットワークへの日本人研究者の参画促進
➡ 理事長トップダウン（裁量経費）により、今年度先行実施。
2. 若手研究者の育成、コネクションの強化を通じた持続可能な国際ネットワークへの参画・連携の土台作り
➡ 今年度予算により、SICORPの一部として試行実施中。



理事長トップダウンによる国際共同研究強化

国際ネットワークへの日本人研究者の参画促進を図るため、欧米等先進国との最先端研究における国際共同研究を戦略的に支援。

公募開始：2022年9月下旬を予定。詳細はHPにて公開

【公募概要（予定）】

原則、各国・地域の有力資金配分機関（公私問わず）から十分な研究資金を得ている各国・地域のトップ研究者との連携を希望する日本側研究者チームをJSTが支援。

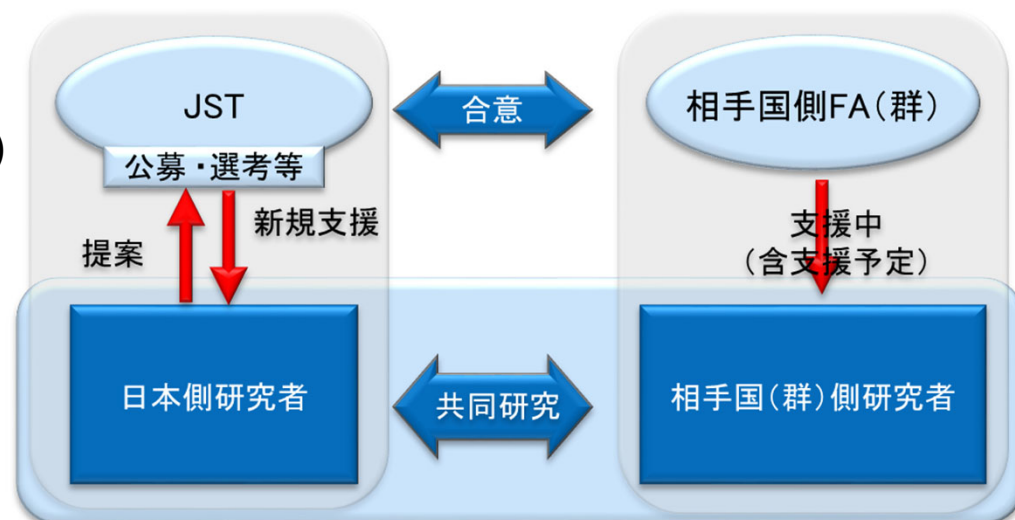
協力分野：バイオ、AI・情報、マテリアル、
半導体、エネルギー、量子、通信

協力国：米国、英国、ドイツ、フランス、カナダ（P）

支援規模：25百万円程度（P）

支援期間：5年程度（P）

研究実施にあたり、若手研究者の先方への派遣・研修、学位取得等の構想を盛り込む。また、相手国側研究者チームからの優秀な人材の受け入れも積極的に支援。



新たな国際頭脳循環モード促進プログラム

戦略的に重要な分野・相手国への若手研究者の中期渡航を支援し、海外でのポスト取得等につなげ、若手研究者育成、持続的な国際ネットワーク参画・形成の土台作りを図る

SICORP

Strategic International Collaborative Research Program

【公募概要】

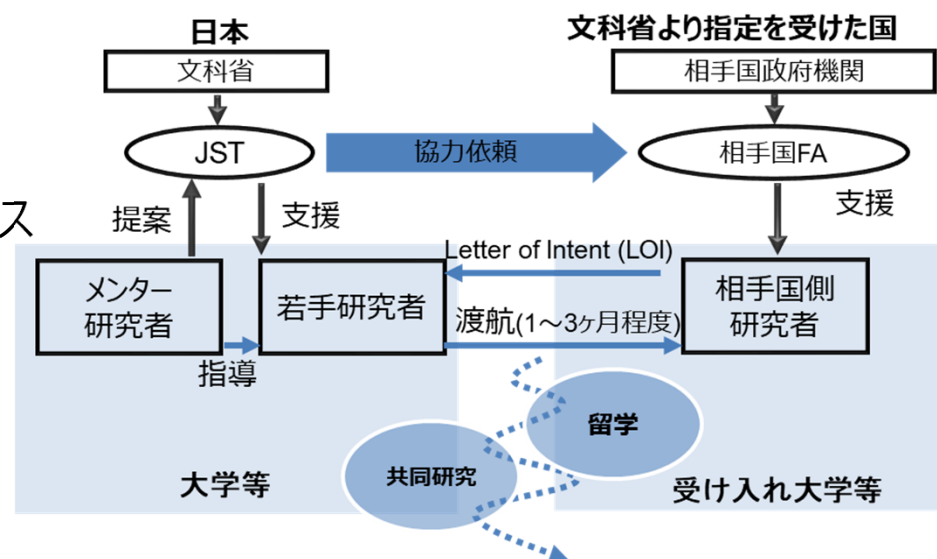
海外留学または海外でのポスト獲得を目指す若手研究者とその指導を行う研究者で構成されたグループによる、相手国側研究者との研究交流を含む国際共同研究を支援し、将来の本格的な国際共同研究や若手研究者の先進国での長期留学に向けてのきっかけ作りを促進

協力分野：デジタルサイエンス、AI、量子技術に関連する
先端分野

協力国：米国、英国、ドイツ、イタリア、オーストラリア、フランス
カナダ、スペイン、オランダ、スイス、スウェーデン

支援期間：約1年間（うち渡航期間1～3か月程度）

支援規模：2百万円～4百万円程度（間接経費含む）



若手研究者を中心とした国際頭脳循環を促進

現在公募中：2022年10月11日（火）12時締切

https://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce_renewmap.html

さらなる国際共同研究に向けて

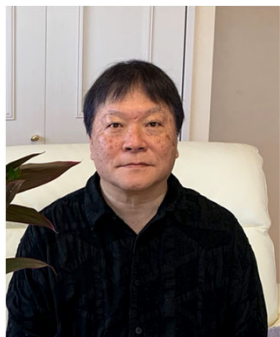
国家の重点分野（量子、AI、半導体、バイオ、エネルギー、マテリアル、…）

わが国で**先端を走る**研究者・研究室と**世界トップレベル**の研究者・研究室の共同研究・若手人材交流

ぜひとも強化していきたい

まだ**間に合う**。しかし、今は**最後のチャンス**かもしれない

本日の登壇者



アイダ タクゾウ
相田卓三

相田卓三

- ・ 東京大学卓越教授・理化学研究所CEMS副センター長
- ・ オランダ王立芸術科学アカデミーメンバー
- ・ 全米工学アカデミーメンバー

1984年 東京大学大学院工学系研究科博士課程 修了 工学博士

1984年－1988年 東京大学工学部助手

1988年－1990年 東京大学工学部講師

1990年－1996年 東京大学大学院工学系研究科助教授

1996年－2022年 東京大学大学院工学系研究科教授

2022年－ 東京大学卓越教授

2007年－2013年 理化学研究所基幹研究所グループディレクター

2013年－ 理化学研究所創発物性科学研究センター副センター長

2021年－ 花王エグゼクティブフェロー

2000年－2005年 JST ERATO研究総括責任者

2005年－2010年 JST ERATO-SORST研究総括責任者

本日の登壇者



クロダ タダヒロ
黒田 忠広

黒田 忠広

- ・ 東京大学 システムデザイン研究センター（d.lab）センター長 / RaaS 理事長
- ・ 未来社会創造事業「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域 外部専門家（2022/05/30～2024/03/31）
- ・ 研究開発戦略センター 特任フェロー（2022/08/01～2023/03/31）

1982年東京大学工学部電気工学科卒業。工学博士。同年（株）東芝入社。1988年～90年カリフォルニア大学バークレイ校客員研究員。2000年に慶應義塾大学に移り、2002年より教授。2007年カリフォルニア大学バークレイ校MacKay Professor。2019年より東京大学教授。d.labセンター長。技術研究組合RaaS理事長。